アカモズの保全の取り組みについて

写真（アカモズ　松宮裕秋氏撮影）

豊橋総合動植物公園は、2023 年より、人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室、長野アカモズ保全研究グループ、信州大学理学部、一般社団法人野生生物生息域外保全センター等と共同で、絶滅危惧種アカモズ（*Lanius cristatus superciliosus*）の保全を目指した取組みを行っています。

【アカモズ】

アカモズはアジアに広く生息していますが、本亜種は日本のみで繁殖し東南アジアで越冬する渡り鳥で、環境省レッドリストで絶滅危惧 IB 類に選定され、種の保存法において国内希少野生動植物種に指定されています。2022 年時点で生息が確認された個体は僅か 92 つがいのみで、その約半数を占める長野県の個体群は近年の減少率が約 40%に達し、このままでは 2026 年にも地域絶滅することが予測されています。

有効な保全策の確立が急務ですが、減少要因は未だに不明であり、生息域内における対策のみで絶滅を回避できる可能性は極めて低いと言えます。そのため、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要とされています。

【2023 年】

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室および長野アカモズ保全研究グループの呼びかけに応じ、2023 年から共同でアカモズの保全事業を開始しました。

親鳥が放棄した巣などから採取した卵を当園へ移送し、人工孵卵及び人工育雛を実施しました。モズなどの近縁種から得られたデータや、これまで当園が取り組んできた和鳥飼育のノウハウを応用して試行錯誤したところ、幸いなことに 9 羽の人工育雛に成功しました。この成功は、絶滅の危機に瀕しているアカモズの保全に対して大きな成果と言えます。

【2024 年】

2 年目となる 2024 年も、捕食などによって親鳥が放棄した巣に残された 19 卵を保護し、当園にて人工孵卵・人工育雛することにより、11 羽を育成させることに成功しました。昨年からの取り組みで、アカモズ人工孵卵・人工育雛については、技術的な目途をつけることが出来ました。

また、飼育下で成育した個体の野外環境への馴化への取り組みとして、屋外飼育施設(野鳥園)において 2023 年の成育個体 1 羽の飼育と行動観察を開始しました。来園者の皆様に直接アカモズをご覧いただけるようになったことで、アカモズの保全をより身近に感じていただけるようになりました。公開と併せて保全推進シンポジウムを開催し、これまでの取り組みやこれからの保全計画について講演しました。シンポジウムは、オンライン視聴と併せて多くの方にご参加いただきました。

【今後の予定】

現在飼育している個体をファウンダー（始祖個体）として飼育下での繁殖を実施することで、飼育個体群を確保し、アカモズの短期的な絶滅の回避を目指します。また、生息域内での保全活動をさらに強化することでアカモズの減少を抑制することが求められます。将来的には、飼育下で生まれた個体を野生復帰させることで、アカモズの野生個体群が安定的に存続可能な状況に達することを目指します。

※本事業は、共同実施者と協力して、JSPS 科研費（24K08959）、環境省生物多様性保全推進交付金、日本動物園水族館協会野生動物保護募金、東京動物園協会野生生物保全基金及びサントリー世界愛鳥基金の助成及び人間環境大学奨学寄附金を用いて実施しています。
※採卵や飼育等は、環境省による許認可のもと、関係法令を遵守して実施しています。